

令和4年度ネットリサーチ「反射材用品」に関する調査結果報告書

■結果のポイント

- 反射材用品の使用状況については、「使用している」が18.4%となっている。一方で、「持っていない」が62.2%となっている。
- 使用してみたい反射材用品については、「小さくさりげないもの（キーホルダー、シール等）」が53.2%で最も高く、「反射だけでなく発光・点滅するもの」が39.0%と続く。

■調査結果の概要

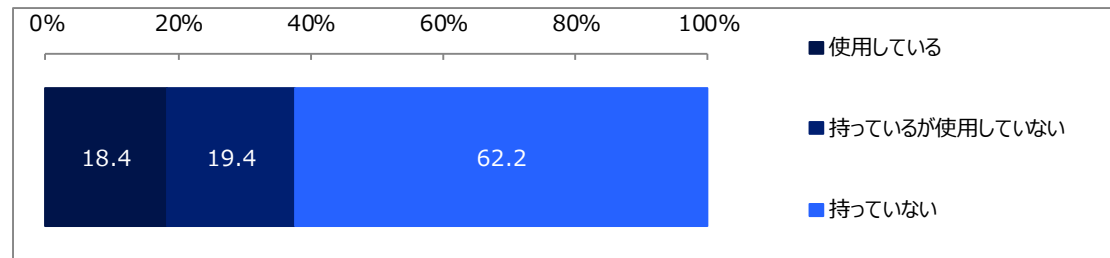
1 反射材用品の使用状況

◇ 「使用している」が18.4%となっている。一方で、「持っていない」が62.2%となっている。

Q1.あなたは、夕暮れ時や夜間の外出時に、反射材用品を使用していますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
使用している	18.4	184
持っているが使用していない	19.4	194
持っていない	62.2	622



(参考)

反射材用品とは、自動車の運転者などに自分の存在を知らせるため、自動車のライト等から出る光を反射する交通安全グッズです。

茨城県警察では、交通事故防止のため、夜間に自転車や徒歩で外出するときは反射材用品を着用するように呼びかけています。

詳しくは、茨城県警察ホームページをご覧ください。 HP : <https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/anzen/reflector.html>

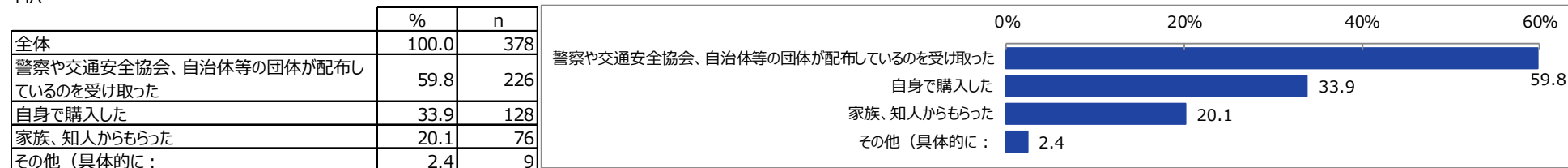
2 反射材用品の入手先

◇ 「警察や交通安全協会、自治体等の団体が配布しているのを受け取った」が59.8%で最も高く、「自身で購入した」が33.9%と続く。

(Q1で「使用している」「持っているが使用していない」と回答された方へ)

Q2.お持ちの反射材用品は、どのように入手しましたか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

MA

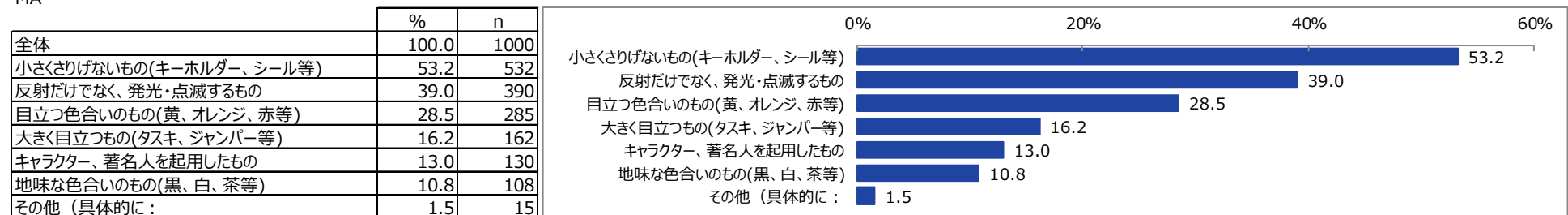


3 使ってみたいと思う反射材用品

◇ 「小さくさりげないもの(キーホルダー、シール等)」が53.2%で最も高く、「反射だけでなく、発光・点滅するもの」が39.0%と続く。

Q3.あなたはどのような反射材用品なら使ってみたい、または、使っても良いと思いますか。次の中からあてはまるものを最大3つまで選んでください。

MA

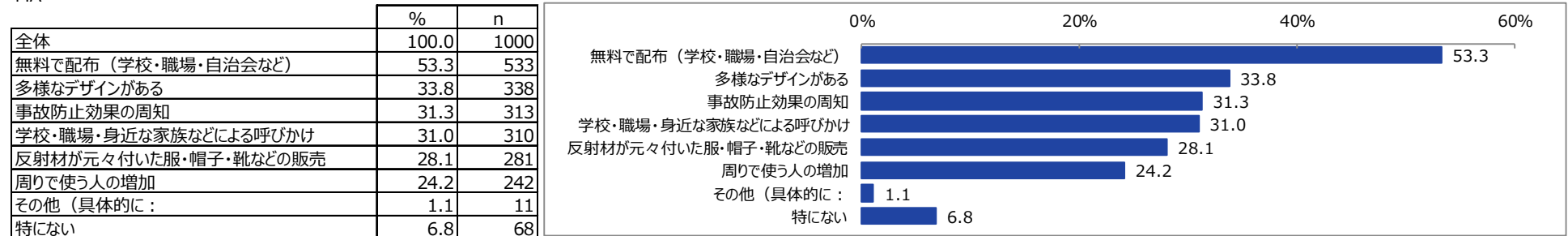


4 反射材用品を広く普及させるための手段

◇ 「無料で配布(学校・職場・自治会など)」が53.3%で最も高く、「多様なデザインがある」が33.8%と続く。

Q4.どのようにすれば、反射材用品が広く普及すると思いますか。次の中からあてはまるものを最大3つまで選んでください。

MA



■調査の目的

薄暮時以降の歩行者交通事故防止のために有効である反射材用品の普及・使用状況等を把握することで、今後の普及啓発活動の参考資料とする。

■実施概要

・実施期間：令和4年12月16日～12月23日

・サンプル数：茨城県常住人口調査（令和4年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル

回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		115	247	95	352	191	1,000
性別	男性	60	126	50	180	99	515
	女性	55	121	45	172	92	485
年代別	18～29歳	18	41	16	66	32	173
	30歳代	17	44	17	62	32	172
	40歳代	23	57	21	81	43	225
	50歳代	27	55	20	75	41	218
	60歳代	30	50	21	68	43	212

県北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡

県央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡

鹿行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市

県南：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡

県西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(注)

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。